

静岡市食の安全・安心意見交換会についてのアンケート（静岡市）

- 傍聴者 25 人 - 平成 19 年 9 月 7 日（金）

= ご意見・ご要望 =

■漁業生産者から市への要望意見がありましたが、漁業生産者からも具体的な案を提供し、市側と協議したらどうか。

ただ単に、地場産品を使えというだけでは、現実的でない。

数量、時期等について、どうしたら市として対応できるか、相互で話し合うべきであると思うが。

食品チェックは厳重にお願いしたい。

■とても良い話で、わかりやすく参考になりました。今後も、このような機会を作ってください。お願いします。

■Ⅰ「食の安全確保～」については、

主に対、業者への施策になっているので、私達一般消費者にとっては、あまり知られていない、分からない部分だと思いました。

生産、調理、製造、加工、流通、販売の各段階ごとに様々な計画事項がありますが、確実になされているかが問題だと思います。

食中毒や鳥インフルエンザ、消費、賞味期限の偽造、ミートホープや白い恋人たちなど、おこってから対応するのでは遅いわけです。

この様にチェックしているにもかかわらず、いろいろな問題が起きてから、実はチェックが甘かったり、チェックを怠っていたという事実があるように思われます。

私達消費者の手に届くまでに、厳しくチェックして頂き、安心、安全なものを提供して頂きたい。その為に、必要な計画があれば増やしたり、単に形だけの計画にならないようにして頂きたい。

Ⅱ「食の安心の提供～」は、

私達消費者に近い施策だと思います。8 ページ情報提供については、図書館等に特別なコーナーを設けたり、市の広報紙への掲載、ホームページ、パンフレットの作成、冊子の作成等、子供たちの研究資料等には有効だが、「食に対して興味、関心を持つ」ということであれば、やはり 13 ページにある地産地消の推進が重要である。

本会でも、地場産品をもっと学校給食に取り入れて欲しいとの意見が出たが、私もそう思います。金額的な面で難しい場合、県として補助金制度などはないのでしょうか？

また、13～17 ページの計画事項に関しては、もっと増やし、情報提供に関しては、メディアをもっとうまく活かせないかと思います。

■自給率 40%を切ったとか、安全・安心がおびやかされているとの危機感からは、ほど遠い内容になっている。その為に、斉藤氏のような委員から、安易な意見が平気で発言され拍手をもらっているのはなさけない。いつまでに、どれくらいやるかの目標数が出ても遅くはない。

今のエコ基準では、お茶のように 100%エコに直ぐひっくり返され、白か黒になる疑念がある。

昔は、自分の目が届く食から十分に集められて、満足していたことです。(それもつい 30 年位前の話)

市民からの苦情件数・内容を開示する努力はしているのか？

のんきな危機感のない市民の後から、形をととのえている推進会と、言われたいようにしたい。

■アクションプランとは、5W1Hで作るもので、実際の行動計画である。大綱の羅列であり、国、県、市と同じことを列挙しているように思われる。

意見交換会のレイアウトがおかしい。傍聴者席から、だれが発言しているか見えない。委員の後ろ側に配置して、傍聴者が外側を囲むようにする。室が細長いのはダメ！

市の独自性あるプランは何か。国、県のデータを活用するのは、その旨のプランでよい。重点的にしぼること。それでない、と、国、県、市と同じ仕事をする人がいる。行政改革の人員削減の対象になりますよ。

地場産品を使って欲しいと意見あり、地場産品の特徴を活かして使うべき、数量がまとまらなくても地域を分けて使ったらどうか。また一方、安全な上で、市場競争で敗けるものは使えないし、地産としても残らないだろう。工夫と知恵で頑張ってください。

■食の安全確保を目指した「食の安全、安心のアクションプラン（行動計画）」は生産、流通、消費に至るまで、食の安全を保つためには、大変重要なことで、積極的に推し進めるべきです。

完璧な対処法があれば、それに越したことはないが、まず、食品の表示は徹底的に義務づけることであろう。そして、しっかり（二重、三重の）チェック、「賢い消費者」になること。安全性を受け入れ健康な食生活を満喫することが何よりであります。

■今回初めてこの会議に参加させていただきましたが、出される質問、又、それに対する返答、相方とも十分な下調べをしているとは、とても思えませんでした。

食の安全の確保の為に、国、県、NPO 等における有機 JAS、JGAP、静岡県農水産物認証制度等、様々な認証制度があります。当市としては、新たに独自の制度を作る必要はなく、それらを利用し安全な一次産品の確保をすれば良い。そこには、多くの情報があるが、それを元に情報開示を行うことも出来ます。

食の安全の確保の為に第一歩は、前向きな生産者の確保、育成であると思われる。

「硝酸態窒素」の問題にどのように対応していくのか？

地産地消については、グローバルな環境問題（マイルコスト）にも通じています。

食育においては、食の安全に関心を持たせるだけではなく、我々が口にする食は全て自然の恵みに基づいているということも伝えるべきだと思う。

未来の環境を創造するのは今の子供達です。

「食の安全」≡「農業振興」 「食の安心」≡「企業倫理」

■ステッカーについては、前向きに考えていただきたい。活動の参考になるお話が多く勉強になりました。ありがとうございました。

■ 1. 座長の決め方

わざわざ「どなたか、ご意見は？」は不要です。

2. 意見交換の中身

限られた時間の中で、活発な意見を期待していたが、残念。

唯一、斉藤委員の気持ちは伝わったが。

座長の「時間が足りない」の台詞は、緊張感が弱いのでは。

回答者からの言葉も、ありきたりで、心が入っていない。

3. 今後のすすめ方

自己PR+市への要求ばかりに感ずる。

自分達で出来ることがあるでしょう！自分達で行動した方が早いでしょう。

「産地交流に行政もバックアップを」と、座長の言葉は良いですね。

基本は「賢い消費者づくり」と、あらためて感じた。

4. 意見交換会の実態が見られて良かったです。有難うございました。

賞味期限の切れたものを再利用しても良い？

■ 地産地消の件、生産者の考え方と消費者との間に、介在するなど。

学校関係の場合の教育委員会の存在が大きなネックになっており、官の考え方の消極性が気になる。

官のアイレベルと生産者のアイレベルが、異なりすぎる。(斉藤委員の発言より)

行政サイドの上意下達ของ 考え方は、昔と少しも変わらない。

民意の吸収を、もっとシェアに実行してもらいたい。

消費期限に対する座長の考え方は、疑問が残る。

■ 1. 平成20年度、アクションプランについて意見

【坂川】

(1) 各課のテーマは、その課でやることを示しただけで、「必要とすることは何か」と、いう観点からテーマが選定されていない。

(2) 過去の実績の中で「何回実施した。何人参加した」これは、実績ではない。それをやって、『どのように変わったか』を実績という。(考えが甘いのではないか?)

(3) 地産地消の中で、斉藤委員の意見はもっともだ。回答側はだらしがない。

(4) 市の統一行動テーマ(重点テーマ)は、なにかわからない。

2. 生産側、販売側のPRを聞く場ではない。

■ 偉い人ばかりが形式的にやっているだけで、皆さん本音で話していないのが、がっかり、これでは交換会を何回やっても同じではないでしょうか。

理想ばかり・・・

現実はずっと厳しいし、本気でやらなければならないと思う。現場の声を、もっともっと聞くべきではないでしょうか。

食品の安全・安心は二の次で、売ればどんな悪いことをもする現状で、消費者は打つ手がない。(ミートホープのようなやり方) 偽装表示は後をたたく、何を基準にしたら良いのか・・・

地産地消もなかなか良い品や、旬の物が出てこないのが難点。行政もいろいろな面で犠牲者が出ないと動かないし、動きがにぶいように思います。

未来の子供達のために、我々大人はしっかりした安全、安心の食育をやらなければならない。